

平成29年度 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果について

1 目的

- (1) 都教育委員会は、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況及び、読み解く力に関する定着状況を把握し、全都における教育行政施策に生かす。
- (2) 区市町村教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる自地区の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、自地区の教育行政施策に生かす。
- (3) 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (4) 都教育委員会は、都民に対し、東京都の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について広く理解を求める。

2 実施日 平成29年7月6日(木)

3 対象学年 都内公立小学校 第5学年 都内公立中学校及び中等教育学校 第2学年

4 調査内容

- (1) **児童・生徒の学力向上を図るための調査**
【小学校】 4教科:国語・社会・算数・理科 **【中学校】** 5教科:国語・社会・数学・理科・外国語(英語)
A 「学習指導要領に示されている教科の目標及び内容」の実現状況に関する内容
B 「読み解く力」の定着状況に関する内容
【取り出す力】 文章や図表、グラフ等を手がかりに、問題を解くのに必要な情報を正確に取り出す力
【読み取る力】 取り出したいくつかの情報を比べたり、関連付けたりして、問題の内容を読み取る力
【解決する力】 読み取った内容と、自分の知識や経験とを照らし合わせて、意図や背景、理由を考えて解決する力
※A・Bは説明上、事務局が追記した表現。
- (2) **児童・生徒質問紙調査** 児童・生徒の生活や学習に関する意識や実態に関する調査
学校質問紙調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査

5 調査結果

東京都の示す最終結果より引用

武蔵野市：自校採点数値から算出

【平均正答率 %】

	小学校 第5学年								中学校 第2学年							
	武蔵野市				東京都				武蔵野市				東京都			
	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計
国語	75.4 (+7.5)	77.3 (+10.0)	[-1.9]	75.7 (+7.9)	67.9	67.3	[0.6]	67.8	78.2 (+5.5)	81.7 (+9.4)	[-3.5]	78.7 (+6.0)	72.7	72.3	[0.4]	72.7
社会	84.0 (+8.7)	70.6 (+9.1)	[13.4]	79.9 (+8.8)	75.3	61.5	[13.8]	71.1	63.3 (+6.3)	61.0 (+6.4)	[2.3]	62.7 (+6.2)	57.0	54.6	[2.4]	56.5
数学 算数	73.5 (+9.0)	54.7 (+7.0)	[18.8]	70.0 (+8.6)	64.5	47.7	[16.8]	61.4	69.4 (+8.1)	43.6 (+8.2)	[25.8]	62.3 (+8.1)	61.3	35.4	[25.9]	54.2
理科	75.2 (+6.4)	84.4 (+6.4)	[-9.2]	78.0 (+6.4)	68.8	78.0	[-9.2]	71.6	62.5 (+5.3)	60.2 (+5.9)	[2.3]	62.0 (+5.5)	57.2	54.3	[2.9]	56.5
英語									72.3 (+9.4)	72.7 (+9.4)	[-0.4]	72.4 (+9.5)	62.9	63.3	[-0.4]	62.9

※武蔵野市の結果の下段()は、「都との差」。「都との差」及び「ABの差」については、事務局で追記した数値。

6 今回の調査から分かる本市の児童・生徒の学力の状況と取組の方向性

(1) 学力の状況

- ①教科、A問題、B問題の全てで東京都の平均正答率を上回っており、基礎的・基本的な学習内容とともに、読み解く力の定着の程度が高いといえる。
- ②小学校社会、小学校算数、中学校数学のA問題とB問題の平均正答率の差が大きいことから、さらに読み解く力の向上に向け、授業改善を図っていく必要がある。

(2) 取組の方向性

- ①1時間の授業の中で児童・生徒が自身の思考過程を振り返る活動を促進し、思考力・判断力・表現力の更なる充実を図る。
- ②グループ活動において自他のよさを認め合う学習活動を促進し、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。
- ③「東京ベーシック・ドリルソフト」等の活用を促進し、知識・技能の確実な定着を図る。